



大松台

令和6年4月26日発行



〒206-0034 東京都多摩市鶴牧6丁目4

TEL 042-337-4010

すべての子供が幸せになる学校

校長 森田 康之

～ GW の過ごし方 ～

前号で、「今週(4月19日)は、一週目に張り切りすぎたこともあり、疲れが出たり、緊張も緩み始めたりしたようです」と書きました。

新年度がスタートし、登校して3週間が経ちました。

3週間経つと、新しいクラスにも慣れ、新しい友達との関係も築かれて、多くの子は安定してきているように見受けられます。とは言っても、わたしの捉えは、「森」を観ての印象ですので、一人一人の子供(「木」)を見ると、そうでない子もいるようです。

それは、上にも書いたように、多くの子は新しい環境に慣れ始めて、自分の居場所も確保でき始めたので、安定し始めています。これは間違っていないと思うのですが、まだ新しい環境に慣れることができずにいる子にとってみると、自分だけが後れを取り、取り残されたように感じてしまうのです。

そういった子たちは、教室や、他の子が何人もいる状況では、気持ちを吐露することは難しいです。しかし、何かのタイミングで信頼している先生と二人になったり、信頼している大人だけの環境だったりすると、ポツポツと、胸の内の苦しい思いを話し始めます。

「新しいクラスで友達ができない…」

「前のクラスの友達は、新しいクラスの友達と遊んでいて、入れてくれない…」

「新しいクラスの先生の話し方が少し怖い…」

「新しいクラスの先生の声が小さくてよく聞こえない…」

「休み時間に一人でいることが多くて、なんとなくさみしい…」

自分の思いを、ほんとうにゆっくりと、ポツリポツリと話してくれます。

子供が話し始めたら、こちらは聴くことにだけ専念します。

質問もしません。

その子の話したいペースで話をしてもらって、聴くだけです。ジャッジ(判断)もしません。しっかり聴いているということが分かる反応はしますが、同意も賛成もしないで、その子が満足するまで聴き続けます。

「子供が満足するまで聴き続けます」と書きましたが、2時間や3時間にもなることはありません。長くとも45分程度で、30分も聴き続けていると、表情が変わってくるのが分かります。そして、ほとんどの場合、本人が、「もう大丈夫」と言って、教室に戻っていきます。

アドバイスがほしかったわけでも、同情してもらいたかったわけでもなく、ただただ聴いてほしかったんだということが分かります。

GW、どこかにつれて行ってあげるのもよいですが、1時間、子供の話を聴く。そんな時間の使い方はいかがでしょう。